

【授業科目】 人体のしくみと働きⅡ(生理学) Physiology

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
森 啓至	1年次後期	必修	2	30	講義	なし	卷末掲載	可
授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対する フィードバック方法	<p>授業概要／ 生理学は正常な人体の機能を学ぶ学問であり、すべての医学系科目の基礎となる重要な学問である。様々な病気が発症するメカニズムや病態、それに対する看護等を学ぶためには、まず正常な人体の機能について知っていなければならない。本講義では、実践の科学である看護学の土台となる人体のしくみと働き(生理学)について、基礎と基本を教授する。小テストは、実施翌週に返却し解説する。</p>							
授業の位置づけ	<p>本学のディプロマポリシー②「人間の健康を環境との関係において捉え、地域社会の生活者の視点から看護の役割を考え、実践することができる。」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・看護実践の土台となる人体の生理機能について説明できる。 ・人体の恒常性とその維持について、機能の面から説明できる。 ・人体の正常な機能と疾患を関連付けて考えることができる。 							
時間外学習に必要な 内容・時間	<p>教科書や配付資料等を予習・復習し、要点をノートにまとめること。受講にあたり 60分程度の予習と120分程度の復習を行う。疑問点はオフィスアワー等を利用して教員に質問し、毎回の講義内容を理解して次の授業に臨むこと。</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>							
授業計画	<p>第1回 細胞と組織 身体を構成するしくみ 第2回 骨格・筋系 身体を支える・動かすしくみ 第3回 血液・循環器系 物質を運搬するしくみ① 第4回 血液・循環器系 物質を運搬するしくみ② 第5回 呼吸器系 酸素を取り入れて、二酸化炭素を排出するしくみ① 第6回 呼吸器系 酸素を取り入れて、二酸化炭素を排出するしくみ② 第7回 体液 体内の水分を調節するしくみ 第8回 泌尿器系 尿を作るしくみ 第9回 酸塩基平衡の調節 第10回 消化器系 食物を摂取して消化・吸収し排泄するしくみ① 第11回 消化器系 食物を摂取して消化・吸収し排泄するしくみ② 第12回 神経系 情報を収集して判断し、伝達するしくみ① 第13回 神経系 情報を収集して判断し、伝達するしくみ② 第14回 皮膚と膜・免疫系/体温調節 生体を守るしくみ 第15回 内分泌系 内部の環境を整えるしくみ</p>							<p>全て 森</p>
評価方法 評価基準	<p>成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 単元毎の小テスト 20%程度 定期試験 80%程度</p>							
教科書	<p>系統看護学講座「解剖生理学」 医学書院 配布資料も併用する。</p>				参考書等	<p>解剖生理学ワークブック 医学書院</p>		
学生への 助言等	<p>前期で行った「人体のしくみと働きⅠ(解剖学)」の基礎知識と、高校で学んだ理科・生物基礎の知識が必要です。高校で生物を履修していない場合は選択科目の生物を履修するなどして、基礎知識を学んでください。この科目を理解するために大切なことは、講義を聞くだけでなく「内容を理解」することです。そのためには、講義に集中して理解することを心がけるのはもちろんですが、各回の講義が終わった「その日」に必ず復習し、ノートを整理することが非常に大切です。疑問点などあれば、「基本的なこと」、「単純なこと」でも構いませんので、オフィスアワーなどを利用して遠慮無く質問してください。</p>							